

Supported by

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

2019年台風19号 福島県聴覚障害者災害支援 報告書



福島県聴覚障害者災害救援本部

一般社団法人福島県聴覚障害者協会

目次

ごあいさつ	2
福島県聴覚障害者災害救援本部の活動経過	3
伊達市	7
郡山市	10
須賀川市	14
川内村	15
いわき市	16

ごあいさつ



福島県聴覚障害者災害救援本部長

一般社団法人福島県聴覚障害者協会会長 吉田正勝

2019（令和元）年10月12日夜10時から13日未明にかけて、福島県を通過した台風19号（令和元年東日本台風）は、県内各地で大きな被害をもたらしました。県内に居住している聴覚障害者及び関係団体において人的被害はなかったものの、各地で避難所が開設され、伊達市、本宮市、郡山市、須賀川市、いわき市の一部において、床上・床下浸水等、様々な被害が発生しました。

また、これまで経験した事のない大雨により、阿武隈川（中通り）、塩野川（伊達市梁川町）、好間川（いわき市）等で、河川の氾濫や大規模な浸水が発生し、激甚な被害をもたらしました。

災害対策の拠点として立ち上げた救援本部は、13日に関係者が集まり、被災状況の確認や対策会議を行いました。

そうした中で、聴覚障害者災害救援本部チームの派遣、伊達市、郡山市、須賀川市、いわき市の福祉担当者の支援が大きな力となりました。

その一方で、自治体での災害時の情報伝達の方法が統一されておらず（遠隔手話サービスの有無・タブレットの有無等）、聴覚障害者は、必要な情報が平等に得られていない、ということが浮き彫りとなりました。関係機関・団体間の情報共有や意思疎通が十分にできなかったという課題もありました。

今回、私たち聴覚障害者の体験や関係機関・関係団体の取り組み、記録を中心に、今後の防災に向けた課題を検討するための資料としてこの報告書を取りまとめました。

報告書作成に当たって多大なるご協力をいただきました関係各位および日本財団様に改めてお礼を申し上げます。

福島県聴覚障害者災害救援本部の活動経過

日程	経過・状況
10月12日(土)	台風19号が福島県に上陸 特別大雨警報発令
10月13日(日)	伊達市のろう夫婦自宅を訪問(安否確認) 福島県聴覚障害者災害救援本部立ち上げ (情報収集・会議) 郡山市のろう夫婦が避難所(小学校体育館)に移動 
10月14日(月)	伊達市のろう夫婦が避難所に移動・訪問調査 郡山地区聴覚障害者災害救援本部立ち上げ (情報収集・会議) 福島県聴覚障害者災害救援本部 (情報収集・会議) 
10月15日(火)	須賀川市及び伊達市の被災者宅の相談及び片付け作業支援
10月16日(水)	伊達市の被災者宅を訪問(住まいの状況・床上浸水) 動画をHPに掲載
10月17日(木)	郡山市のろう夫婦自宅訪問(住まいの状況・床上浸水)
10月18日(金)	郡山市の被災者宅の片付け作業支援(郡山地区本部から支援活動)
10月19日(土)	郡山市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
10月20日(日)	郡山市及び伊達市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
10月21日(月)	郡山市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
10月22日(火)	郡山市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
10月23日(水)	須賀川市被災者宅を訪問
10月24日(木)	郡山市被災者宅へ片付け作業支援・相談支援 川内村のろう者宅を訪問調査 (住まいの状況・橋が崩落) 
10月27日(日)	伊達市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
10月30日(水)	毎日新聞取材(伊達市のろう夫婦) 郡山市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
10月31日(木)	郡山市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
11月1日(金)	郡山市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
11月3日(日)	伊達市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
11月4日(月祝)	伊達市の被災者宅の片付け作業支援・相談支援
11月7日(木)	聴覚障害者災害救援中央本部と福島県聴覚障害者災害救援本部の視察活動 ・伊達市のろう夫婦自宅視察→伊達市役所訪問。担当者との話し合い。 →郡山市のろう夫婦自宅視察→郡山市役所訪問。担当者との話し合い 伊達市の被災者宅の片付け作業支援
11月8日(金)	伊達市の被災者の相談支援
11月10日(日)	伊達市の被災者の相談支援

11月12日(火)	伊達市の被災者の相談支援	
11月13日(水)	須賀川市の被災者宅の片付け作業支援	
11月14日(木)	福島県聴覚障害者災害救援本部会議(四団体)	
11月15日(金)	伊達市の被災者の相談支援	
11月16日(土)	伊達市の被災者の相談支援	
11月22日(金)	本部に伊達市のろう夫婦が来所(相談)	
12月5日(木)	伊達市の被災者の相談支援	
12月10日(火)	福島民報新聞社取材(伊達市のろう夫婦) 須賀川市のろう夫婦自宅訪問 (住まいの状況・床上浸水・情報支援)	
12月11日(水)	須賀川市役所担当者へ連絡(ろう夫婦について情報提供)	
12月23日(月)	福島民報新聞社取材(郡山市のろう夫婦)	
1月16日(木)	聴覚障害者災害救援中央本部と福島県聴覚障害者災害救援本部の視察活動 ▪いわき市のろう者4組を訪問調査 →いわき市役所訪問 担当者との話し合い	
1月17日(金)	川内村の被災者宅を訪問調査	
2020年4月1日(水)	伊達市の被災者の相談支援(伊達市担当者同行)	

聴覚障害者の被災状況

市町村	被害状況					
	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	その他	備考
伊達市	0	0	1	0		
郡山市	0	0	1	0		
須賀川市	0	0	1	0		
いわき市	0	3	0	1		
川内村	0	0	0	0	1	橋の崩壊

10月12日避難指示が出た時の行動について

市町村	避難した	避難しなかった	備考
郡山市		2	
須賀川市	2		近くの高台
いわき市	3	3	山の神社、娘の自宅
川内村		1	

10月13日以降(台風通過後)の避難状況

市町村	避難先		自宅
	避難所	家族や親戚	
伊達市	2		
郡山市	2		
須賀川市			2
いわき市		3	2
川内村			1

福島県聴覚障害者災害救援本部

2019年10月13日（日）、福島県聴覚障害者災害救援本部を立ち上げ、情報収集・聴覚障害者の安否確認等の対策会議を行いました。



11月14日（木）、福島県聴覚障害者災害救援本部会議を行いました。

1. 経過報告
2. 災害救援本部の体制の取り組みについて
【次ページ〈参考資料〉を参照】
3. 日本財団「令和元年台風19号等の被害に関する活動支援」申請



郡山地区聴覚障害者災害救援本部

2019年10月14日（月）、郡山地区聴覚障害者災害救援本部を立ち上げ、情報収集活動・聴覚障害者の安否確認・支援活動等の会議を行いました。



<参考資料>

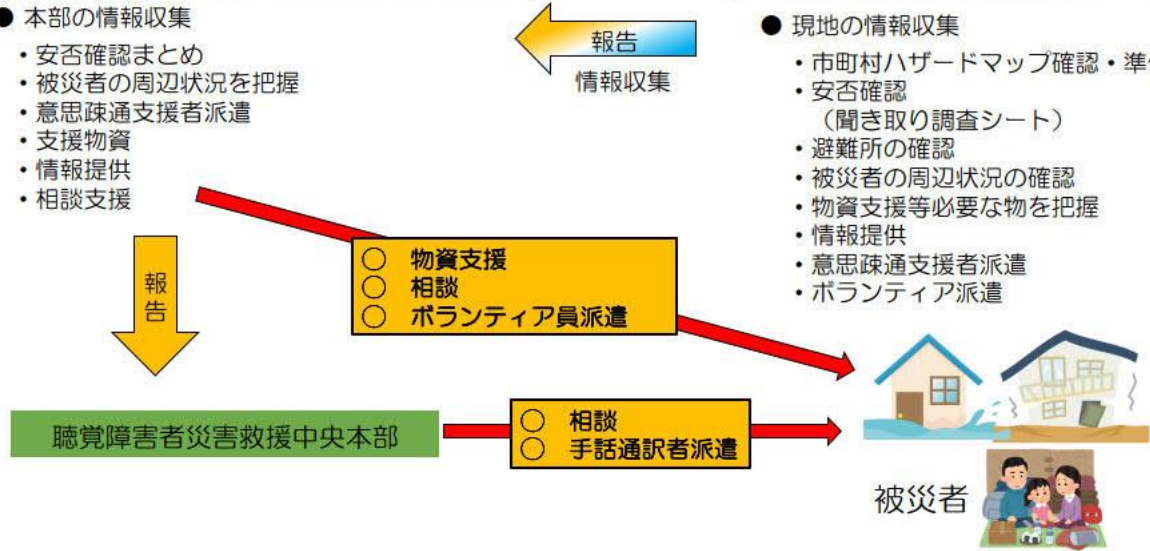
福島県聴覚障害者災害救援本部の取り組み

福島県聴覚障害者災害救援本部の役割は？

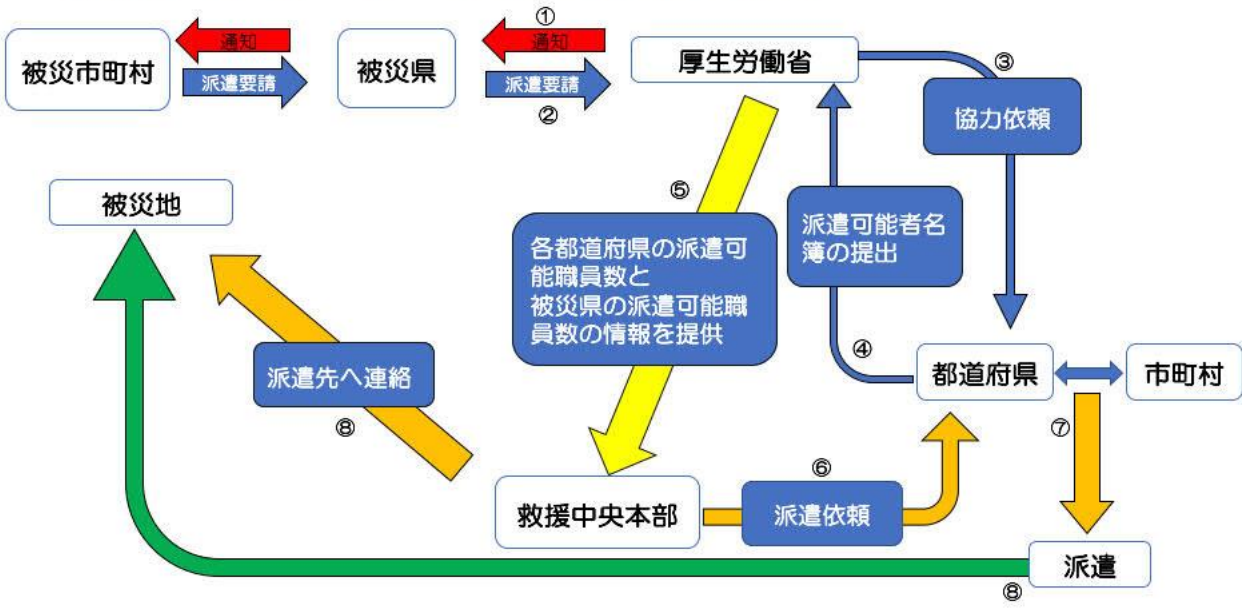
- 本部の情報収集
 - ・ 安否確認まとめ
 - ・ 被災者の周辺状況を把握
 - ・ 意思疎通支援者派遣
 - ・ 支援物資
 - ・ 情報提供
 - ・ 相談支援

各地域災害担当の役割は？

- 現地の情報収集
 - ・ 市町村ハザードマップ確認・準備
 - ・ 安否確認
(聞き取り調査シート)
 - ・ 避難所の確認
 - ・ 被災者の周辺状況の確認
 - ・ 物資支援等必要な物を把握
 - ・ 情報提供
 - ・ 意思疎通支援者派遣
 - ・ ボランティア派遣



災害により被災した視聴覚障害等への避難所等における情報・コミュニケーション支援について



【聴覚障害者災害救援中央本部との視察（伊達市）】

2019年11月7日（木）、聴覚障害者災害救援中央本部の久松事務局長・瀬川職員（2名）と福島県聴覚障害者災害救援本部の吉田本部長・小林事務局長・横田職員（3名）による合同現地視察調査を行いました。

※ 福島駅→伊達市染川町被災者の自宅→伊達市役所→福島県聴覚障害者協会事務所

＜伊達市の被害者自宅＞



【家の中の状況を確認】



＜伊達市役所を訪問＞

聴覚障害者災害救援中央本部の久松事務局長、瀬川職員と共に、伊達市役所社会福祉課障がい福祉係を訪問。被災状況について話し合いの場を持ちました。



＜伊達市の被災者へ聞き取り＞

●被災時の様子

- ・夜、寝る前に伊達市の設置通訳者から避難を促すメールが何度も届く。
- ・近くの川は過去に氾濫した事があり、それを踏まえて舗装されたばかりだったので、氾濫することはないだろうと予想していた。
- ・夜中2時頃目覚め、外を見ると水が押し寄せてきているのが分かり、慌てて夫をたたき起こした。
- ・外は海のような光景。
- ・大雨で流れてきて驚いたのは、冷蔵庫！
- ・周りの住民は既に避難していたのでは？と思ったが、水が引いた後、あちこちに車が見え、逃げ遅れたのは自分たちだけではないと思った。



【この位置まで浸水したとのこと】



【ボランティアセンター担当者との話し合い】



【家の前に山積みになった災害廃棄物】



【水浸しになってしまった車】

2019年10月14日（月）避難所へ移動



【スマートフォンによる
遠隔手話通訳の使い方を確認】



【筆談ボードは聞こえる人との
コミュニケーション手段のひとつ】

届かない救援の声

聴覚障害者 浸水自宅に取り残され

ともに聴覚障害があるエリアメールも携帯に届いてしたが「大丈夫妻きみ子さん(71)と福島伊達市梁川町は10月13日未明、豪雨に襲われた。前日に手話通訳者から避難を呼び掛けられ、避難勧告の

を見て「自宅前が海のようになっている」と異変に気づいた。既に床上浸水しており、自宅2階に逃げた。消防が梁川町で救助を始めたのは午前3時ごろ。ボートで回り、助けを求める人がいなか確認した。丹野さん夫婦方の近くに住む女性は今午前11時に救助された際「耳が聞こえない夫婦がいる」と消防隊員に伝えた。ところが消防隊員が2人の元に来ることはなく、水が引いた午後1時ごろまで自宅に取り残された。

で「災害を甘く見た。早めの避難を心掛けた」と自戒を込めて語り、きみ子さんも「待つしかなく、不安だっ

た。ろう者がいる場所を行政の中で共有してほしい」と求めた。音声による119番が困難な聴覚障害者ら

のため、スマートフォンなどを使って文字情報で通報できる「Net(ネット)119緊急通報システム」があ

る。総務省消防庁によると、全国726消防本部のうち導入済みは168本部(6月1日時点)で、伊達市を管轄する消防も取り入れていない。2020年度末までに、導入済みも含めて578本部が導入予定という。

「要支援」消防知らず



浸水した自宅で手話通訳者に被災状況を説明する丹野繁男さん(右)ときみ子さん(中央)夫妻。福島伊達市梁川町で10月

市によると、丹野さん夫婦は自力避難が困難な「避難行動要支援者名簿」に登録されているが、具体的な避難行動を定める「個別計画」は未作成で、消防との連携も取れていなかった。担当者は「対策を考えたい」としている。繁男さんは手話

▲2019年11月7日(木)
毎日新聞掲載

【聴覚障害者災害救援中央本部との視察（郡山市）】

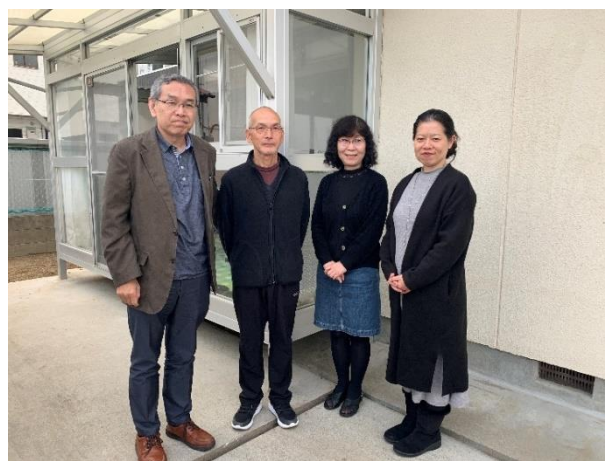
2019年11月7日（木）、聴覚障害者災害救援中央本部の久松事務局長・瀬川職員（2名）と福島県聴覚障害者災害救援本部の吉田本部長・小林事務局長、福島県聴覚障害者協会の山田副会長・山中理事による合同現地視察調査を行いました。

※ 福島県聴覚障害者協会事務所→郡山市安積町被害者の自宅→郡山市役所訪問

＜郡山市の被害者自宅＞



【被災者への聞き取り】



【郡山市役所を訪問】

11月7日（木）

聴覚障害者災害救援中央本部の久松事務局長、瀬川職員と共に、郡山市役所障がい福祉課を訪問。被災状況について話し合いを行いました。



＜郡山市の被災者へ聞き取り＞

●被災時の様子

- ・郡山市聴覚障害者会からたくさんの連絡が届く。
- ・消防（？）からも警戒レベル5の連絡あり。周りの家を見たが避難している様子はなかった。ので、大丈夫だろう、と避難はしなかった。
- ・消防の呼びかけは聞こえなかったが、頻繁に通っていたので避難するか悩んだ。
- ・夜 10時半頃、姪の夫が様子を見に来る。

- ・冠水していなかったので、眠りにつくが、気付くと天井から雨漏りがあった。
 - ・夜3時半頃、起き上がろうとすると、いつもと違う感覚で身動きが取れず。(ラックが倒れこんでいた。)
 - ・立ち上がろうとすると、水に浸かった感覚。膝あたりまで浸水していた。
 - ・部屋は停電。懐中電灯で照らしながら携帯を探すも、畳が浮いてきて歩きにくい。
 - ・停電で、電気もつかず、FAXも繋がらない。途方に暮れる。
 - ・ろうの仲間に連絡をして、郡山市聴力障害者会に助けを求める。
 - ・今年からスタートした郡山市の遠隔手話サービスを使って助けを呼び、午後2時頃に救命ボートで救助してもらった。
 - ・避難所では情報が少なくとても不便だった。筆談での対応も特になく、避難所にいる聴覚障害者の大変さを、身をもって実感した。
 - ・翌13日、息子2人が長靴を準備して助けに来てくれた。
 - ・4人で家の状況を確認するが、目も当てられないほどの惨状。記録のため、写真を撮る。
 - ・手話関連の本がすべてダメになり、愕然とした。高い場所においておけばよかったのだが…。泣く泣く処分。とても残念。
 - ・親戚総出で片付け作業。郡山市聴力障害者会に手伝ってもらおう事を提案するも、とにかく頑張ると言われ、まずは親戚のみで作業を進める。
 - ・最近暮らし始めた住人はすぐ避難したが、昔からの住人は避難していなかったことが、あとから分かった。過去の水害の経験から大丈夫だろうと高を括っていたようだ。
- 被災時を振り返って
- ・今年から遠隔手話サービスが始まったことより、浸水被害で大変焦りながらも、夫のスマホを借り、ろう者の仲間をとおして郡山市聴力障害者協会に連絡した後、障がい福祉課とビデオ通話でつながることができた。救援隊が到着するまでの間、状況を説明いただきながら待つことができた。無事到着したときは、その旨すぐ連絡することができたので本当に良かったと思った。このようにスムーズな避難ができたのは、郡山市聴力障害者協会の皆さまの懸命な活動のおかげだと思う。本当にありがとうございました。



【広範囲にわたり浸水】



【山のように積まれたゴミの山】



【片付け作業は終わりが見えない】



【高圧洗浄機で洗浄】

聴覚障害者SOS救え

台風19号、県内で逃げ遅れ

遠隔手話やスマホ活用

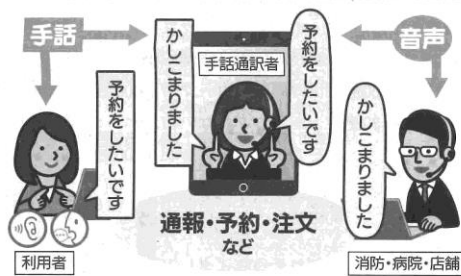
自治体に温度差

二〇一九年十月の台風19号を教訓として、緊急時に聴覚障害者が助けを求め手段が注目される。浸水した地域で自宅にいた聴覚障害者が逃げ遅れたり、救助隊員の声に気付かず取り残されたりするケースがあった。郡山市など県内の一部地域ではテレビ電話の遠隔手話サービス、文字で一九番通報できるシステムの導入が進む。一方で各市町村間の対応には温度差があり、スマートフォンなどに不慣れた高齢者への普及なども課題に浮上している。



台風19号当時の状況を説明する佐藤邦子さん。浸水した自宅ではリフォーム工事が進んでいた。二〇一九年12月28日、郡山市安積町

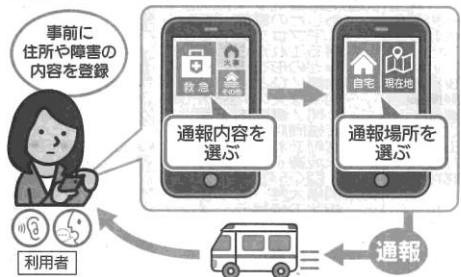
「遠隔手話サービス」のイメージ



■気付かぬ兆候
 台風19号で床上浸水とともに聴覚障害者被害に遭った郡山市安積町。二人暮らしのため、

積町の佐藤邦子さん（左）は夫栄治さん（右）とともに聴覚障害者

「Net119緊急通報システム」のイメージ



激しい雨音や、緊急車両のサイレン、呼び掛けなどに反応しづらい。台風19号の際、一階で寝ていた邦子さんが浸水に気付いたのは十月十三日午前三時ごろだった。

会話のやり取りが必要になるため、二人にとって自力での一九番通報は難しい。この報で「Net119緊急通報システム」の運用を始めた。住所や障害の内容を手話サービスを使って救助求めた。スマホのアプリでテレビ電話を置き、市話通話料を払って、市話で状況を伝えた。市から通報を受けた消防隊によって救出されたのは午後二時ごろだった。邦子さんは「サービスがなかったら、二人でどう対応していたのか」と振り返る。

福島市消防本部は昨年四月から県内で初めて聴覚や発音に障害がある人がスマホを通じて「Net119緊急通報システム」の運用を始めた。住所や障害の内容を手話サービスを使って救助求めた。スマホのアプリでテレビ電話を置き、市話通話料を払って、市話で状況を伝えた。市から通報を受けた消防隊によって救出されたのは午後二時ごろだった。邦子さんは「サービスがなかったら、二人でどう対応していたのか」と振り返る。

郡山市は県内最多の聴覚障害者を抱え、二〇一五（平成二十七）年に東北で初めて手話言語条例を設けた先進地でもある。市の

通報支援制度の普及で課題も浮かび上がっている。県内で遠隔手話サービスを導入したのは郡山市、いわき市など二部にとどまる。国が推奨しているが、活用は市町村レベルでの判断となり、財政的な負担や受益者の数が少ないことなどを背景として、自治体間での対応に差が出ている。

担当者は「関係者から導入を求める要望が多かった」と経緯を明かす。福島市障がい福祉課によると、高齢の聴覚障害者の中には、かつて十分な教育が受けられず、文字の読み書きが苦手な人がいるという。Net119緊急通報システムの運用に当たり、担当者は「スマホの購入や契約、設定といった手続きも大きな負担になると指摘。説明会の開催などを通して浸透に努めるとしている。

担当者は「関係者から導入を求める要望が多かった」と経緯を明かす。福島市障がい福祉課によると、高齢の聴覚障害者の中には、かつて十分な教育が受けられず、文字の読み書きが苦手な人がいるという。Net119緊急通報システムの運用に当たり、担当者は「スマホの購入や契約、設定といった手続きも大きな負担になると指摘。説明会の開催などを通して浸透に努めるとしている。

▲2020年1月5日（日）

福島民報新聞掲載

■高齢化の波

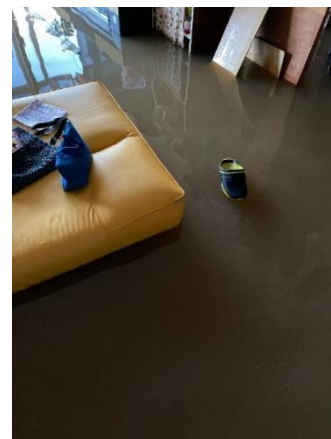
聴覚障がい者総合福祉センターによると、二〇一九年四月一日現在、県内の聴覚障害者は六千九百八十三人。また、聴覚障害を含む身体障害者八万一千五百人のうち、六十五歳以上の高齢者が占める割合は75・9％と、一九八九年の48・5％から増えている。県聴覚障害者協会によると、台風19号で浸水被害が出た伊達市梁川町で、浸水した自宅を救助を待っていた聴覚障害者の高齢夫婦が、消防隊がドアをたたき音に気付かずに取り残されたケースがあったという。吉田正勝会長は「授受できる情報が少ない、ろうあ者にとって通報の選択肢が増えるのは良い」とした上で、「デジタル技術の発展から取り残されてしまう人もいる。改めて行政や地域住民間で支援が必要な人の把握に努めてほしい」と日頃からのケアの大切さを訴えている。

【須賀川市】

＜須賀川市の被災者へ聞き取り＞

●被災時の様子

- ・12日の夜大雨が降っていたが、大したことはないだろうと思っていた。
- ・13日早朝4時に起きると雨はやんでいたが、外を見ると数cmほど冠水していたのが分かったので、慌てて妻を起こした。水はどんどん増えていき、1時間程で腰の高さまで浸水してしまった。
- ・荷物はあきらめ、高い所へ避難した。車は低い場所に駐車していたので手遅れだった。壊れてしまい、もう動かさません。がっかりです。
- ・警報などのお知らせには気付かなかった。あったとしても、寝ていたら分からない。(聞こえない)



●被災後の状況

- ・一番大変なのは足がないこと。電車もバスも動かず、タクシーも断られ、歩くしかない。
- ・手話サークルの方からいろいろと支援していただいた。
- ・友人から「遠慮せずに頼ってください」と言われ、お言葉に甘えた。橋が崩壊した道は通行止めになっていたので、別ルートで来てもらい、片付け手伝ってもらった。
- ・今回のような水害は、60年間で初めての経験。大変ショックが大きい。
- ・川まで距離があったので大丈夫だと思っていた。とても驚いている。
- ・車がダメになってしまい、友人と一緒に買い物に行ったが、やはり気を使ってしまう。
- ・親戚からたくさんの支援をいただいた。お米などたくさん持ってきてくれて感謝している。家族の絆を感じた。コミュニケーション方法は、手話ではなく、筆談や身振り。
- ・罹災証明の手続きをし、1ヶ月後に証明書が届いた。病院の診察料や銭湯代が無料になるとのこと。1年ではなく、2ヶ月まで。
- ・被災者に対する補助金の申請も行った。
- ・リフォームは12月3日からスタート。補助金をもらう関係で、市役所の連絡を待たなければならなかった。
- ・被災後、電力が弱まったような感じがする。不便。
- ・近隣の住民とのコミュニケーションが、なかなか難しい。コミュニケーションが出来ないことで、どうしても得られる情報量が少なくなってしまう。



【川内村】

10月24日（木）川内村のろう者宅を訪問。
台風の影響で橋が崩落し、不便な生活を強いられている。



【ろう者宅へ行くために
橋を渡らなければならない】



【崩壊した橋】



【自宅の被災状況を確認】



【村役場担当者からの聞き取りの様子】



【聴覚障害者災害救援中央本部との視察（いわき市）】

2020年1月16日（木）、聴覚障害者災害救援中央本部の久松事務局長・瀬川職員（2名）と福島県聴覚障害者災害救援本部の吉田会長・山田副会長・小林事務局長（3名）と合同現地視察調査を行いました。

※ 湯本駅（いわき市）→1人目被災者の自宅→2人目被災者の自宅→3人目被災者の自宅→4人目被災者の自宅→いわき市役所訪問



<いわき市の被災者（1人目）へ聞き取り>

●被災時の様子

- ・周囲との付き合いはあまりない。
- ・台風情報は気にも留めなかったが、だんだん近づくにつれ、不安になった。
- ・台風が通過した後、ドアを開けようとしたが、水に押されてなかなか開かず大変だった。家はあっという間に屋根の棟のあたりまで浸かってしまった。



- ・同じアパートに住む人と一緒に、山の神社に避難した。冠水している中、全身ずぶぬれになりながら歩いた。その時は、近くの川が氾濫していたことは分からなかった。（大雨のため）

●避難生活

- ・パニック状態で何も持っていけず、布団や食べ物等分けてもらった。助けていただいた方々には本当に感謝している。
- ・避難生活は、9月下旬か10月あたりから。この家に越してきたのは12月。

●被害の状況

- ・自宅アパートは浸水してしまい、市役所へ被災した事を伝えた。
- ・今までにない、生まれて初めての経験。
- ・自衛隊やボランティアの方に協力いただき、部屋の物を運び出した。家の前は、災害廃棄物が山のように積み上がりすごかった。

- ・表彰状や集めていたろうあ関係の書籍等、全て処分せざるを得ず、とても落胆した。
- ・思い出の写真や大事にしていたアルバム、全てダメになってしまった。中学の頃、登校時に周りに差別、偏見の目を向けられながらも、ひたすら耐えながら通っていた。初めて出会った自分以外のろう者。ろうの友だちに会う度に、同じ仲間がいると安心する。そんな思い出の品が無くなってしまった。

●困った事は？

- ・特に困った事はない。何かあれば、市役所に連絡して自転車で向かっている。

●現在の状況

- ・罹災届を提出した。保険の方も手続きを進めている。人的被害が起きたところが優先されているので、待っているところ。
- ・今も時々アパートに戻っている。来る人はろう者が多く、聞こえる人は少ない。
- ・設置通訳者は話がスムーズに進むので良い。いつもお世話になっている。手話の奥深さ、面白い所、学びになったとのこと。
- ・前と比べて交流するのが億劫、しんどい気持ちになった。自分は聞こえないと告知することも疲れてしまった。
- ・東日本大震災も経験したが、モノが壊れるくらいだった。水害の場合そうはいかない。後片付けがとても大変。

<いわき市の被災者（2人目）へ聞き取り>

●被災時の様子

- ・近所に住んでいる娘が突然家に来てビックリした。早めに避難するように言われ、2人で避難。
- ・1時間ほどであっという間に冠水したが、早めに避難していたので事なきを得た。
- ・浸水していく様子が外から見て分かった。周りの家はみんな浸水被害にあっていた。
- ・娘の自宅は3階建てだったので、3階に避難することができた。1階は全て水に浸かってしまった。
- ・娘曰く、車がぷかぷか浮かんでいたとのこと。

●被災後の状況

- ・1週間後、家に戻った。家（団地）の中は80cmくらい浸水。地面から図ると3mほど。
- ・好間川が近くにあったが、ここまでの被害が出たのは初めてだと思う。
- ・大地震も経験したが、水害はそれ以上の大変さがある。
- ・罹災申請をして、引っ越してきた。抽選で選ばれたのが、以前の家の近くで良かった。あくまでも一時的な仮住まいなので、好きな場所を選ぶことはできない。エレベーターが

なく、階段で上り下りをしている。

- ・3月くらいまでをめでに元の家に戻れるとのこと。



<いわき市の被災者（3人目）へ聞き取り>

●被災時の様子

- ・好間川が氾濫し、すごい勢いで水が押し寄せてきた。
- ・（車の中腹）まで浸かった。
- ・どこからか、庭にタイヤがたくさん流れてきた。
- ・目の前の家は、土地が低くなっているのでかなりの被害があったらしい。
- ・私の家は高台にあり、かろうじて床上浸水を免れた。畳等は無事。



●現在の状況

- ・日常生活は特に支障はない。
- ・家が他の家と比べて少し高い所にあったのが功を奏した。
- ・車はエンジンがかからなくなってしまったので、今度処分してもらう予定。
- ・エアコンは3台壊れてしまった。室外機が完全に浸水してしまったため。



<いわき市の被災者（4人目）へ聞き取り>

●被災時の様子

- ・夜7時頃、テレビを見ていたら下から水がわいてきて、たちまち畳が浮き上がり足元が安定しなくなった。
- ・気付いた時は、椅子の腰掛の高さまで浸水していた。
- ・私の家は1階だったので、上に逃げることはできなかった。
- ・外も辺り一面水だった。



- ・甥に連絡し、倒れたテレビのあった台の上に座り、夜通しひたすら我慢して助けが来るまで待っていた。
 - ・避難指示などの連絡はなかった。
 - ・翌朝、甥が迎えに来てくれたが、車で近くまで来られず、少し離れた場所から水の中を歩いてここまで来てくれた。
 - ・リュックに荷物をたくさん詰めて、甥の家に避難した。
 - ・外に出るとまだ水が引かず、歩くのが容易でなかった。
- 被災後の状況
- ・被災直後は四倉の甥のところに居候させてもらった。その後は公民館に移り、ここのアパートを一時的に借りている。
 - ・1年間の期限付。期限が過ぎた後のことを考えて別のアパートを探しているところ。
 - ・家は傾いて崩壊の恐れがあり、中の物を処分できずにいる。
 - ・次の住まい探し、家賃が心配。
 - ・このアパートも水が来ていたが、浸水は免れたそう。賃貸はやっていなかったが、大家さんが被災者のために提供してくれたようだ。
- 現在の生活
- ・平日は仕事。定年後も勤めている。1週間は仕事をして、次の週はお休みというような隔週勤務。以前は毎日通勤していたが、現在は災害によって働き方が変わった。
 - ・職場の方も、後片付けが済んでいない。照明設備がまだ復旧していないし、コンテナ4段のうち2段まで浸水でダメになってしまった。一カ月の給料は80%に減給。

【市役所訪問】

1月16日（木）

聴覚障害者災害救援中央本部の久松事務局長、瀬川職員と共に、いわき市役所障がい福祉課を訪問。聴覚障害被災者の聞き取り調査の結果を報告しました。



2019 年台風 19 号福島県聴覚障害者災害支援報告書

2020（令和2）年9月

編集・発行 福島県聴覚障害者災害救援本部
一般社団法人福島県聴覚障害者協会
〒960-8141
福島県福島市渡利字七社宮 111 福島県総合社会福祉センター内
TEL：024-522-0681 FAX：024-563-6228
E-mail：fukushima-deaf@f-da.or.jp

印 刷 陽光社印刷株式会社

